

研修テーマ	身近な草本植物	参加者	埼玉支部 24名 他県支部 1名
講師	渡辺 賢二氏（埼玉県支部樹木医） 寺井 学氏（樹木医）	場所	Withyou さいたま 視聴覚センター室
資料	「草本植物写真」、「絶滅危惧植物12種」P-point 資料	記録	成山 久広
目的	樹木の周辺には、一般的に「雑草」といわれる「草本植物」が生育している。樹木周辺の「草本植物」の生態から周辺環境の一部を知ることができ、また「草本植物」の植生変化を観察することで樹木環境の変化にも気づくことができる。本研修会では身近な「草本植物」の生態について再学習し、地域の樹木の健全な生育につなげることを目的とする。		

研修内容

（第1部）「あっ!!この草なんだろう」（渡辺講師）

タチツボスミレ・ネジバナ（モジズリ）等可憐な花をつけ、日本人が古くから親しんできた植物。シロクロバーは小動物の食害を防ぐ弱毒性を持つが近年の都市化で毒性を持たなくなる生態変化が起きていること。ナガミヒナゲシ・コバンソウ・チガヤ等道路植樹帯にはびこり除草の難しい植物。アメリカフウロ・オランダミミナグサ・ワルナスビ・オオキンケイギク等の特定外来生物、アメリカオニアザミ等要注意外来生物。都市部で少なくなったシロザやアカザ。等々、在来種の衰退や外来植物への遷移等を講師のエピソードを交えた75種の解説。



講義風景



渡辺講師

（第2部）「絶滅危惧植物12種について」（寺井講師）

絶滅危惧植物（ⅠA・ⅠB・Ⅱ類）タヌキマメ・センブリ・アゼオトギリ・カワラケツメイ（ネムチャ）・キンラン・キキョウ・オグルマ、準絶滅危惧種や衰退傾向にある植物タコノアシ・スズサイコ・カワデシャ・オミナエシ・オオヒナノウツボ 12種について、その生態・成育環境や講師が開発現場で関与し保全に努めた経験を交え解説。



講義風景



寺井講師